大学･高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F135210110061	設置等組織名	データサイエンス学部データサイエンス学科
大学名	下関市立大学	設置区分	公立		
学校種	大学	都道府県	山口	事業計画名	下関市立大学データサイエンス学部新設事業

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	R5 2-① 新校舎設置に伴う設備備品購入及び据付け（下関市立大学）	R5 2-① 新校舎設置に伴う設備備品購入及び据付け（下関市立大学）	令和5年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和6年度	R6.4.1 データサイエンス学部 設置予定 R6 3-① 設置計画履行状況等調査報告 R6 3-② 質の高い入学者確保のための志願状況分析、高校へのヒアリング R6 助成対象経費について、以下の内容の計画変更承認を申請。（R7.3.26承認） （1）既存品使用による消耗品費の未使用 （2）機能強化会議のポスターセッション参加に伴う旅費の増加 （3）高校訪問時等の利便性向上のため、備品として購入予定の物品をパソコンからタブレットに変更	R6.4.1 データサイエンス学部データサイエンス学科 開設（入学定員80名、工学関係） R6 3-① 設置計画履行状況等調査報告 R6 3-② 質の高い入学者確保のための志願状況分析、高校へのヒアリング	令和6年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和7年度	R7 3-③設置計画履行状況等調査報告 R7 3-④質の高い入学者確保のための志願状況分析、高校へのヒアリング R7 3-⑤学習効果の検証 R7 3-⑥入試制度の検証 R7 3-⑦より高度な教育及び研究を行うための大学院設置構想検討 R7 助成対象経費について、以下の内容の計画変更承認を申請。（R8.1.5承認） （1）既存品使用による消耗品費の未使用 （2）機能強化会議のポスターセッション参加に伴う旅費の増加 （3）旅費の不足に伴う人件費からの流用	R7 3-③設置計画履行状況等調査報告 R7 3-④質の高い入学者確保のための志願状況分析、高校へのヒアリング R7 3-⑤学習効果の検証 R7 3-⑥入試制度の検証 R7 3-⑦より高度な教育及び研究を行うための大学院設置構想検討	令和7年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	R8 3-⑧設置計画履行状況等調査報告 R8 3-⑨質の高い入学者確保のための志願状況分析、高校へのヒアリング R8 3-⑩学習効果の検証 R8 3-⑪入試制度の検証 R8 3-⑫より高度な教育及び研究を行うための大学院設置準備 R8 3-⑬企業ニーズの把握		令和8年度自己評価：リストから選択してください。
令和9年度	R9 3-⑭設置計画履行状況等調査報告 R9 3-⑮質の高い入学者確保のための志願状況分析、高校へのヒアリング R9 3-⑯学習効果の検証とカリキュラムの見直し R9 3-⑰より高度な教育及び研究を行うための大学院設置準備 R9 3-⑱企業ニーズの把握 （申請要件㉛関係）寄附金、研究費等の外部資金の獲得について、フェーズ３の助成期間終了時までに、 本助成金の申請額 118,120 千円 × 2.5% = 2,953 千円 を上乗せした水準以上とする。		令和9年度自己評価：リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価：リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価：リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価：リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価：リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価：リストから選択してください。
認可申請 又は届出	R5.3.17 データサイエンス学部データサイエンス学科（仮称）設置認可申請	R5.3.17 データサイエンス学部データサイエンス学科 設置認可申請 R5.6.28 データサイエンス学部データサイエンス学科 設置認可申請に係る補正申請	
定員減又は 学部等の廃止	令和６年４月 経済学部経済学科40人減員予定（入学定員155人、編入学定員8人、経済学関係） 令和６年４月 経済学部国際商学科40人減員予定（入学定員155人、編入学定員8人、経済学関係）	令和６年４月 経済学部経済学科40人減員（入学定員155人、編入学定員8人、経済学関係） 令和６年４月 経済学部国際商学科40人減員（入学定員155人、編入学定員8人、経済学関係）	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	下関市立大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学

ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学

ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	下関市立大学

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
□ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
教養科目「下関学」の中で「PBL」を開講予定。既設学部（経済学部）での実績もあり、引き続き、データサイエンス学部の学生も企業や自治体と連携したプログラムを実施予定である。 また、2022年10月14日に山口フィナンシャルグループほか2社と、さらに、2023年2月14日に下関商工会議所と、データサイエンス分野における人材育成について、相互に連携・協力した取組を行う包括連携協定を締結した。企業と連携した科目としては、人的交流（講師派遣）やPBLなどを想定している。 さらに、下関市の「スマートシティ推進事業」により収集したデータの活用、山口フィナンシャルグループが保有する個人・法人の金融データを研究テーマの題材とした共同研究も想定されている。	令和7年度は教養教育のPBLにおいて、『国際食品商談会におけるPRブース運営とフリー商談への誘導数向上』及び『「下関酒造」の認知度向上への方策』、『下関市の防災減災に関する未来創造プロジェクト！』の3テーマについて開講した。『「下関酒造」の認知度向上への方策』では15名の学生（うちデータサイエンス学部生5名）が地元企業と連携し、主体的な学びを得た。また、『国際食品商談会におけるPRブース運営とフリー商談への誘導数向上』において、10名の学生（うちデータサイエンス学部生4名）が下関市と連携して準備を進め、沖縄県で開催された『沖縄大交易会2025』にてブース運営や商談現場の立ち合いを通して、実務に即した学びを行った。 3年次生全員を対象にした「DSプロジェクト」（R8年度開講［通年］）では秋学期からPBLを始動するため、地元企業を中心に7～8社と連携し、各企業に対して2～3名の教員を割り当て、それぞれが学生の指導ができるように、実施に向けて調整を行った。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

□ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
□ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
□ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
【女子学生の確保（志願者数増）】 入学した女子学生が、実際に地元の中等教育段階の学校を訪問し、生徒に対して理系学部の魅力や受験対策について話すことで、女子生徒にとっても身近な学問と感じてもらい、受験動機の向上を図る。 【地域の初等中等教育段階の学校との連携】 高校訪問や出張講義を実施し、大学における授業の具体的なイメージをもつことで、進学への動機づけを図る。また、本学教員による市内高校への論文指導を実施しており、これを継続することで、教員の研究内容に興味をもつきっかけづくりを行う。	【女子学生の確保（志願者数増）】 令和8年度は、データサイエンス学部データサイエンス学科に88名が入学し、そのうち23名が女子学生であった（入学者のうち26%）。また、オープンキャンパスにて、データサイエンス学部の女子学生による「理系女子相談コーナー」を設けた。女子学生5名による相談会には女子高校生、保護者等が参加し、授業の内容や学生生活、入学試験のことなどについて対話を行い、本学への進学を促進する機会とした。 【地域の初等中等教育段階の学校との連携】 令和7年度においては、235校の中等教育機関を訪問し広報活動を行った。出張講義についても、データサイエンス学部の教員が17講座のメニューを準備し、高等学校からの要望により９講座を実施した。 DXハイスクールに選定された下関中等教育学校での探究学習において、令和7年度はデータサイエンス学部の教員が学習活動を支援し、卒業研究発表会の審査委員として参加・講評を行った。また、令和8年度は同校の学校運営協議会の委員に就任し、専門的見地から支援と連携を図っていくこととなった。SSHに選定された下関西高等学校では課題研究発表会において、データサイエンス学部の教員が審査員として参加・講評を行い、専門的なフィードバックを行った。	

大学名	下関市立大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	データサイエンス学部データサイエンス学科（工学関係）

		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定・認可	開設																	
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	80	80	80															
		編入学定員	人	-	0	0	0															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	80	80	80															
		入学者数	人	-	88	80	88															
		女子学生数	人	-	23	32	23															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	80	80	80															
		入学者数(B)	人	-	88	80	88															
		女子学生数	人	-	23	32	23															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	0	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.10	1.00	1.10															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	80	160	240															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	88	167	252															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	1.10	1.04	1.05															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	1	2	12															
		授業科目の単位数	単位	-	14	22	28															

大学名	下関市立大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	80	80	80															
		入学者数	人	-	88	80	88															
		女子学生数	人	-	23	32	23															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	80	80	80															
		入学者数(B)	人	-	88	80	88															
		女子学生数	人	-	23	32	23															
		社会人学生数	人	-	0	0	0															
		留学生数	人	-	0	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	1.10	1.00	1.10															
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	80	160	240															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	88	167	252															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	1.10	1.04	1.05															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	1	2	12															
		授業科目の単位数	単位	-	14	22	28															

大学名	下関市立大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	450	450	530	530															
		入学者数	人	473	521	565	560															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	450	450	530	530															
		入学者数(B)	人	473	521	565	560															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.05	1.16	1.07	1.06															
	収容定員等	収容定員(C)	人	1840	1840	1920	2000															
		編入学定員	人	20	20	20	20															
		在籍者数(D)	人	1954	2002	2099	2194															
		編入学者数	人	18	18	19	17															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.06	1.09	1.09	1.10															

４.外部資金の状況（全学）

改組状況		H30年度 申請−5年	R1年度 申請−4年	R2年度 申請−3年	R3年度 申請−2年	R4年度 申請−1年	R5年度 選定	R6年度 開設	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	24,329	22,969	27,096	13,330	24,511	30,064	32,779	47,471											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金	千円	23,936
本事業による助成金の額(F)	千円	118,120
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	26,889

特記事項